

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	56.6%	自校A B層の割合	50%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」「まとめ」等の全学級共通カードを作成し、授業の基本の流れを意識した取組を行う。 総合的な学習の時間や読書科をはじめ、教科全般で協働的に学ぶ機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの診断テストを学期ごと（年3回）に実施する。 漢字小テスト、計算小テストを定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市販ドリルとタブレット端末によるドリルパークを併用して効果的に家庭学習を行う。 江戸川っ子study week!の取組からタブレットを活用した家庭学習を効果的に行う。 業間に学習タイムを設け、ドリルパークを活用する習慣を身に付ける。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な問題を取り入れ、自信をもってできた実感できるようにする。 答えられやすい質問を考え、誰でも発言、発表できる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室スタッフと連携して、苦手分野の復習を実施する。 東京ベーシックドリルの診断テストの結果を学習カルテをもとに分析し、個々の課題のある学習内容を把握し、ドリルパーク等を活用して復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市販ドリルとタブレット端末によるドリルパークを活用して家庭学習を行う。 保護者と連携して、課題のある学習内容を伝え、ドリルパークの活用を推進する。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査の設問「友達と協力するのは楽しいと思いますか。」において肯定的な回答90%以上を目指す。 全国学力学習状況調査の設問「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」において肯定的な回答85%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの診断テストにおいて70%達成者が75%以上になるように目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査の設問において、「授業時間以外の勉強時間」1時間以上の回答の割合80%以上を目指す。